

モンゴルなどの教員 福井の教育環境学ぶ

7カ国から14人

学力が全国トップクラスの福井県の教育を学ぼうと、アジアとアフリカの小学校教員らが来県し20日、福井市の福井大教職大学院で教育環境について講義を受けた。参加者は学校教育に対する家庭の関心の高さなど、学力を支えている要因に興味深そつに聴き入った。写真。

一行はモンゴルやケニアなど7カ国の14人。国際協力機



構(JICA)の研修で10日に来日した。同大学院の松木健一教授が福井県の特徴について、家庭の

関心度のほかに▽考え判断する学習の重視▽教員が教える専門家から学びの専門家に変化している―などと紹介。「教員同士の学習会などが教員の質を上げている。教員は授業だけでなく学校生活を通して子どもと向き合い、徳育、知育、体育を行っている」と述べた。ザンビアの小学校の女性教員は「子どものさまざまな力を育てることが教育のベースにあると分かった。社会で力を発揮できる教育が重視されているのは興味深い」と話していた。(石井敬夫)